

あいあいあい

I eye 愛

2023 年

6 月号



広い水田の半分は手植えです



田植え機に乗せてもらいました



5/20 田植えが終わった「トライ田んぼ」の前で記念撮影

地区委員会のみんなで七郷におじゃまします

理事 八重畑 ゆかり

毎年、各地区委員会では産地交流として、はさま自然村（登米市）、大郷みどり会（大郷町）、七郷みつば会（仙台市）、天童果実同志会（山形県天童市）、ながめやま牧場（山形県飯豊町）と交流をしています。今年度、青葉A B地区委員会は七郷みつば会と交流することになりました。

交流のメインとなるのは「七郷トライ田んぼ」での活動です。この活動は組合員が登録制で、年間通して参加しており、みつば会の生産者と共に無農薬で米作りをするというもの。青葉A B地区委員会も一緒に活動します。今年度、初めの活動として5月20日に田植えを行いました。朝方まで降っていた雨が上がり、清々しい空気の下、参加者は「美味しいお米が実りますように」と願い、ひと苗ひと苗大切に植えました。

この先、6月の草取り、7月は子どもが夢中になる田んぼの生き物調べ、10月には稲刈りがあります。草取り作業の際は、周りの強靱な草たちに負けず、健気に稲が育っていく様子が見られ、健やかに育って欲しいと、お米に對

して我が子を見守る親の気持ちが芽生えます。そうして迎える稲刈りでは、みんなでお刈り終えたスツキリした田んぼを見て、達成感が味わえます。

田んぼ仕事、特に田植えや稲刈り（手植え、手刈り）は、実際やってみると楽しくてハマる方が多いのです。田んぼの土、苗の感触、匂い、行って体験してみないと知ることのない、味覚以外（味覚は収穫後に…）の五感をフル活用するワクワク感。大人は童心に帰し、子供は目を輝かせて手伝います。楽しいことだけでなく、暑い中での草取りなど、身体を使って農作物を作ることの大変さ、ありがたさを改めて思い知る良い機会ともなります。生産者にとつては、組合員と直接交流することで、安心して食べてもらえる食べ物をお届けしたいという仕事のモチベーションアップに繋がるそうです。好循環が生まれます。

今年度も、生産者と組合員の交流が活発に行われ、農作業に目覚める方、より生産者のファンになる方が増えることでしょう。

CONTENTS

- ▶「石けん運動そもそぼなし」第3回 ……2
- ▶委員オリエンテーション報告 ……3

- ▶産直肉の試食会開催 ……4-5
- ▶バスちゃんジェラート バランゴンバナナ ……6

- ▶健康チャレンジ結果報告 ……7
- ▶生産者さんにあいに行こう 天童果実同志会 ……8

石けん運動 そもそも ばなし

連載第3回



「なぜ石けんか」を伝え続ける
高崎 かおりさん
(元 石けん環境委員会担当理事)

合成洗剤ではなく石けんを使う人を増やそうと、あいコープでは石けん運動を続けています。連載3回目からは、特に委員会活動として石けん運動に力を注いできたあいコープの歴代理事に寄稿いただきます。

今年あいコープが実行委員会となつて行う石けん運動の全国集会「シャボン玉フォーラム」。2013年にもあいコープが実行委員会となり開催しました。震災直後だった当時、担当理事だった高崎さんは、どんな想いで活動していたのでしょうか。この連載のタイトルでもある「そもそも」を、かつての活動からも考えてみましょう。



委員会で冊子を作り
啓発活動をしています

理事だった頃、どうやって石けん利用率を上げていくかが私の課題でした。「石けん初心者」に、どんな話をしたらよいのか。当時、理事長だった吉武洋子さんに相談し「小学校3年生でも理解できる話を」とのアドバイスから、「紙芝居」の制作を始めました。内容は「how to」ではなく「そもそもなぜ石けんか？」に焦点を合わせ、「水は巡る」というタイトルにしました。水はどこから生まれ、どう使われ、どこへ行き、どう処理されるか。その中で石けんはどう存在するかというお話にしました。

この紙芝居を持って各地区で話をし始めると、「肌荒れを改善したい」という「自分ごと」でしかなかった問題を、「被害者にも加害者にもなつてはいけない」という『社会の問題』としてとらえる組合員が少しずつ増えてきました。

震災後の2013年5月には「シャボン玉フォーラム in みやぎ」にて、「3・11から環境を考える」というテーマで話をしました。一人でも多くの人に石けんの良さを伝えるには「石けんの灯を絶やさないうこと」。これも吉武さんから教えてもらった事です。



紙芝居を使い話す高崎さん
(2013年のシャボン玉フォーラム)

登米の里山に強くたくましく育つ 原木椎茸を見に行きました



登米市東和町・芳賀裕さんの原木椎茸圃場を、16家族の皆さんと見学しました。

福島第一原発事故による放射能の影響で、多数の生産者が原木椎茸栽培を辞める中、芳賀さんは圃場の落ち葉を取り除き砂利を敷き、九州から原木を取り寄せる等の努力をし、出荷できるまでになりました。開会式の参加者自己紹介では、皆さんこの見学会を楽しみにしていた様子を伝えて下さいました！

その後は、原木に植菌作業をする場所や、椎茸菌が回るまで原木を保管しておくハウスを見学し、砂利の斜面を歩いて山に向かいました。この日、一番の楽しみ、椎茸の収穫体験です。原木からひよこり生えている椎茸を発見した喜びは、皆さん隠せません！

原木椎茸は「林産物」と言われ、山や森を維持していくことと密接な関わりがあるそうです。斜面に井桁に積まれている原木の様子を見ても、収穫までには大変な作業があることが伺えるとともに森の一部として栽培される原木椎茸の美味しさの理由がわかった気がしました。

4月23日
食と農委員会主催
原木椎茸見学会

生産者の芳賀さんには、参加者の皆さんのためにたくさん準備していただき感謝の気持ちでいっぱいです。そしてコロナ禍を経て数年ぶりに開催できたことは何よりの喜び！今後も多くの組合員さんに産地に足を運んでいただきたいと思います。

理事 太田代 一世



ホダ場の斜面で
生産者の芳賀さんを囲む



椎茸収穫体験をする
参加者たち

「石けんが環境にやさしい」はイメージ？それとも「事実」？

5月13日

せつけん運動ネットワーク記念講演
「せつけんで変わる地球環境・海環境」

せつけん運動ネットワーク記念講演として行われた、「せつけんで変わる地球環境・海環境」に参加しました。講師として招かれたのは今井剛氏（山口大学大学院創成科学研究科教授）です。

今井先生を含めた山口大学、宗像市、九州環境管理協会、シャボン玉石けんの4つの団体で2021年9月～11月に「島まるごと無添加石けん生活」生活排水の環境及び生物に対する影響に関する実験プロジェクト」を行った結果をお聞きしました。宗像市にある地島（じのしま）で、島民が合成洗剤から石けん利用に切り替えたことで、下水処理場の水質や微生物がどのように変化するか調査するというものです。コロナ禍の上、3カ月分の石けんの輸送などの大変さもありながら、島民の方の協力により実施され、石けん利用の下水処理場では微生物の種類の増加がみられたことや、水質汚染度の指標となるBOD（生物化学的酸素要求量）が下がったという調査結果をお聞きしました。

与えた結果、石けん液のほうは順調な生育だったが、合成洗剤液のほうは成長していないという実験結果もお聞きしました。

また、汚れの酷い下水処理場では、微生物が分解時に使用する酸素を大量に送り込まなければならず、そのために多くの電気を使う事を知り、ゴミ処理と同じように、下水に流す水の量を減らし、その水質を保つことが、エネルギー使用量を減らすことにつながることを教えていただきました。

これらの実験結果をお聞きし、石けん利用が環境によいと再認識できました。また講演会の後には「シャボン玉フオーラム in みやぎ」の開催をお知らせし、実行委員長の原子理事が全国の会員に参加を呼びかけました。多くの方にせつけんの良さを広める運動を続けて行きましょう。

石けん環境委員会担当理事 佐藤 あきな



講演する今井教授



オンラインで全国の会員に呼びかける
あいコープ原子理事

組合員活動オリエンテーション開催

石けんでナチュラルクリーニング @エルパーク仙台

5月19日に組合員活動オリエンテーションに参加して、石けんの使い方を教えていただきました。

参加者は約60名。私は組合員活動オリエンテーションに初めての参加だったのですが、まず最初の理事長の挨拶であいコープの活動の意義を改めて感じました。

その後、今回のメインである酸素系漂白剤の使い方を実演。水筒や茶碗についた茶渋や汚れの落とし方を学びました。私は酸素系漂白剤を持っていたがイマイチ使い方が分からなかったたので、漂白剤の泡の中にすぐに汚れが浮き出しているのを見て驚きました。これから色々と活用していきたいです。



石けん環境委員会による
クリーニングの実演



実際に酸素系漂白剤で
食器の汚れが浮くの確かめた

他の様々な洗剤の説明を聞き、カシミヤのストールの洗い方も学んで来ました。最後のグループワークでは色々なお話を聞く事ができて、とても有意義な時間を過ごしました。

食品と同様に洗剤も生活に身近な存在であるのに、知らなければ自分では望んでないようなもので与えられるまま使ってしまうかもしれないと気づきました。本当の事を知る努力をし、自分で考え、何事も自分で選んでいく事が大切だと、いつでもそうありたいと思いました。

しおさい地区委員 松戸 友紀

★これからの養豚プロジェクト(とんプロ)って？

あいコープの産直豚肉を生産する社会福祉法人みんなの輪・あいコープ職員・組合員がチームとなり、飼料の国産化や地域循環、アニマルウェルフェアを理念とする〈あいコープ型畜産〉をさらに推進するためのプロジェクト。2023年2月に発足し、養豚産地の共同ビジョン策定を目指して活動しています。

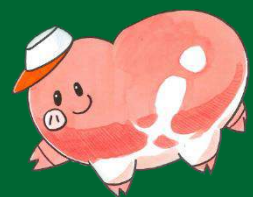
コロナ禍により途絶えていた『集まって、一緒に食べて、おしゃべりする』イベントを数年ぶりに開催できたことに感謝します。

国内畜産業は今、飼料や資材・エネルギー価格の歴史的な高騰や人材不足、家畜伝染病など様々な困難にさらされています。多くの方が実感する通り、あいコープの産直肉もまた値上げを余儀なくされ、買い支える組合員の負担も徐々に大きくなっています。

世界的に食糧生産が危ぶまれる今後、私たちはどんな肉をどのように食べていくべきでしょうか？植物ベースの代用肉、昆虫食、バイオテクノロジーを駆使した代替肉・・・「フードテック」と呼ばれる最新技術には、様々な添加物や遺伝子組み換え・ゲノム編集技術を前提としたものも多くあるようです。

資源の地域循環と国産飼料による安全安心の担保、アニマルウェルフェア、そして地域福祉を大切に考える〈あいコープ型畜産〉は、まだまだ道半ばです。「食べて応援」とともに、今後のとんプロの活動へどうぞご注目ください。

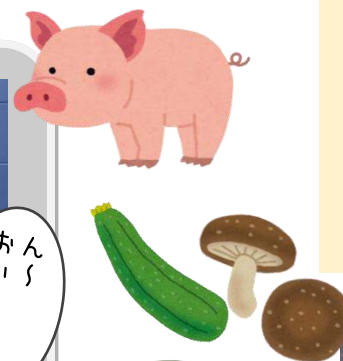
理事 石井朱里



とんプロや生産者への
メッセージをお寄せください



あいコープの豚肉は毎週利用しています♪
牛肉は今回初めて食べましたが、想像していたよりずっと美味しかったです！
豚肉も肉厚なのに柔らかくて、脂身もたれないのが良い。
(家族3人でご参加の佐藤さんご一家)



生産者、職員、組合員の力で作り上げた肉まつり！
地区委員さん達も大活躍でした♪

5/20(土)、食と農委員会ではミートセンター設立1周年と「これからの養豚プロジェクト(★)」の発足を記念し、第1回【肉まつり】を開催しました。

会場のあいコープ日の出町センターで、当選した20組56名の組合員とご家族が、産直肉のBBQに舌鼓を打ちつつ、生産者との生の交流を楽しみました。



▲ミートセンターの
こだわりを熱く語る
吉武常務と辻井職員



産直豚肉の切り落としやモモスライス、焼き肉用をよく利用しています♪
あいコープの牛肉は初めて食べましたが、すごく柔らかくておいしかったです。豚肉も柔らかくて、家族みんな大満足でした！
(家族4人でご参加の佐藤さんご一家)



▲「召し上がれ♪」焼けたお肉を提供する
豚の生産者 大内芳裕さん

畜産の厳しい現状と組合員への感謝が語られた“生産者アピールタイム”

→社会福祉法人みんなの輪
法人統括
仲野谷仁さん



肉 産直肉を BBQ で味わう大試食会

「学校給食の無償化を実現する仙台市民の会」発足

今、全国では約3割、宮城県内でも約半数の自治体が学校給食無償化に踏み出しています(一部条件付きも含む)。仙台市でも給食無償化を求める会が組織され、あいコープみやぎも一員に。4/15のスタート集会では、宮城教育大学の宮澤孝子先生をはじめ、農業者、自治体職員、現役保護者からの意見が出されました。

会の代表である宮城教育大学の久保教授からは「無償かつ、おいしくて、栄養が豊富で、安全な給食になるよう目を注いでいかなければいけない」との挨拶もあり大いに頷けました。当日の動画を公開していますので左のQRコードからは非ご覧ください。署名活動も始まっています。仙台市外にお住まいの方も署名いただけます。ご協力をよろしくお願いします。

理事 櫻井 洋子



74名が参加したスタート集会

「子どもケミネット」設立！個人で加入もできます

4月22日、有害化学物質から子どもを守るネットワーク(略称子どもケミネット)設立総会が東京で開催されました。昨年の「環境安全基本法」の制定を求める請願署名は、衆参合わせて合計87,137筆にも達しましたが、残念ながら「不審議」でした。しかし歩みを止めず、子どもの発達・健康に悪影響を及ぼす有害化学物質に対し、必要な対策の実施を政府に働きかける組織を結成しました。ぜん息やアレルギー、不妊・不育症、発達障害児の増加など、体内のホルモンや神経伝達物質による情報伝達をかく乱する人工の有害化学物質(環境ホルモン等)の関与が指摘されています。子どもたちを守るために、予防原則を適用した有効な対策を実施するよう強く働きかけることを宣言致しました。

理事長 高橋 千佳



あいコープは
呼びかけ人として参加
(一番左が高橋理事長)

わだいの
たねまき



会の様子を動画で



個人での申し込みは
こちらから

もう試した？ パスちゃんミルクジェラート 「バラゴンバナナ」

アイスクリームに…

広い牧場で放牧されて育った、幸せな牛のお乳「放牧パスちゃん牛乳」はあいコープの代名詞とも言える商品。この生乳をもっと商品に活かしたい！と、2020年にデビューしたのが「放牧パスちゃんミルクジェラート」です。製造を手掛けるのはアイスクリームの間屋さん「図南商事」が運営する名取市のジェラテリア「ナチュリノ」さん。アメリカ合衆国大統領へのおもてなしにジェラートが使われたというこ



製造スタッフの皆さん

本物のバナナの香りがする！

これまで、生乳の美味しさそのままの「ミルク」、わ・は・わのいちごジャムを使った「いちご」、フェアトレードのチョコレートを使った「チョコ」、有機の抹茶を使った「抹茶」の4つの味が作られました。5月5回、新たに「バラゴンバナナ」がデビューしました！



スプーンがスッと入り食べやすい



フェアトレード商品
バラゴンバナナ

まんま通信でお馴染みフィリピンの在来種バラゴンバナナを使ったこの商品、ジェラートにはどうしても使わざるを得なかった「増粘剤」がなんと不使用。口に入れるとサラツとつけてミルクの中に香るバナナの風味：…これまで食べた事のある市販の「バナナ味アイス」の味は人工香料の味だったのね！と思わず目を丸くしてしまいました。しつこいねっとり感はなく、爽やかな香りはバラゴンバナナならではの。さながら「食べるバナナスムージー」です。香料無添加なのでバナナの個体差が製品の味に出ています。ナチュリノのキッチンで熟度を見極め、最高のタイミングで作るとか。

小さなお子さんにも安心して食べさせられる夏のおやつ。冷凍庫に常備しておきましょう。次回は7月2回のまんま通信に登場予定です

新連載
第3回

天童りんごオーナー日記

4月最後の土曜日。暑いぐらいの

快晴のもとで、天童トライりんごオーナーの皆さんによる初めてのりんごのお世話が行われました。天童の園地にオーナー家族がそれぞれ自家用車で集合。お一人で参加の方も、6人家族で参加の方も、みんながワクワク感を抱え、りんごの木の下に大集合です。

園地は花盛り。薄いピンクのりんごの花から花へ、ミツバチやクマバチが飛び交っています。今回は、まとまって咲く花のうち一つを残して摘み取る作業です。大きな木に咲く無数の花から、残す花を一つ一つ見分けて、手で摘み、落とします。「こんなことを生産者さんは全部の木でやるんですね」と、参加者みんな、生産者に尊敬の眼差し。脚立に登り高い部分もつとやりたかったと後ろ髪引かれる参加者もいて、皆さんの本気が伝わりました。

担当理事 鈴木 真奈美



実になっほしい中心の花を残しまわりの花を摘み取る

理事会議事録抄

2023年5月2日(火)

▼感染症法5類以降以降の新型コロナウイルス感染症予防対策について決定した▼第35回通常総代会の進行・役割分担について決定した▼ジョイケア決算・予算報告を承認した▼全体区分推薦委員会報告を承認した▼議案書第3号議案「役員補充選任」について決定した▼代表理事の変更を承認した▼安定ヨウ素剤配布会企画案を承認した▼「選挙に行こう！」呼びかけ活動案を承認した。

組織概要

(2023年2月分)

【組合員数】	16,253名
【供給高】	228,913千円
【一人実利用高】	5,472/週
【出資金】	1,343,022千円

ちょっと
ひとこと

● 外交をもって紛争を避けるということは全くその通りだと思いました。今、外交の努力が全く見えません。軍事費のことも財源ばかり問題にされて大事なことが抜け落ちていると感じます。(4/9安保学習会参加者感想)

誰もが安心して暮らせる社会を

ジョイケア企画

健康チャレンジ 参加者443名！

ジョイケア事務局では、昨年度好評だった「健康チャレンジ」の企画を今年度も行いました。コロナ禍もあり、外出する機会が減る1〜2月の寒い時期に健康に留意した生活を送るきっかけになればと始めた企画でしたが、今回も幅広い年代の参加があり、総勢443名となりました。

4つのチャレンジコース（運動、脳トレ、健康管理、ご自身で取り組む内容を決めるマイチャレンジ）から好きなコースを選んで1ヶ月（28日以上）取り組み、報告書を提出していただくというものです。今年度は運動の筋トレを選択する方が多く見受けられ、複数を選択して取り組んだ方もいらっしゃいました。

チャレンジした組合員さんからは、「○×の記録をつける」と励みになり、続けるモチベーションが上がりました」という



参加者には手軽に食べられるご飯やスープのセットが贈られた

声や、「28日以上という目標があるので、頑張れました」「冬のこもりがちな生活に張りができて良かった」「楽しく取り組むことができました。これから継続していきたいです」等、たくさん感想が寄せられました。ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。

ジョイケアでは今後も引き続き、皆さんが毎日を健康で楽しく過ごせるよう、お役に立てる企画を考えていきたいと思っています。

ジョイケア担当理事 三浦 一枝



私のオススメ商品



辛味好きの私がオススメするのは、キムチや焼肉のたれでもおなじみ『趙さんの味』の甘辛味噌『コチュジャン』です。

ラーメンに入れるのもよし！焼肉に使うのもよし！遺伝子組み換えでない大豆で作ったお味噌の甘さと唐辛子の辛さが絶妙なハーモニーを奏でます。是非一度お試しください！

事業部 供給課 河原木 匡志

編集後記

4〜5ページで報告した通り、とんプロ主催の「肉まつり」を開催しました。倍率約2倍の抽選の結果、当選した幸運な参加者の皆さんと、生産者を交えての大焼肉大会。あいコープが産直肉運動を続ける決意の証である「ミートセンター」の前で、産直肉を感謝しながらいただきました。

美味しい肉、安全な肉、それを求めるのは自分や家族のため。でもそれをみんなで選んで食べ続けることが環境や福祉をも豊かにする大きな選択だと、わいわいがやがやと美味しい時間を過ごす皆さんのそばでずっと考えていました。頑張ろう、とんプロ。

広報担当理事 鈴木真奈美

Present

アンケートプレゼント
機関紙あいあいあいにご意見感想をお寄せください。抽選で3名の方にあいシテル商品をプレゼント！右のQRからどうぞ。

アンケートプレゼント



ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。

個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2023年4月分)

ささえあい(保障)	1件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	14件	利用延べ人数	5名
集団託児	4件	◆ケア時間	
慶弔・出産・お見舞いBOX	237件		25時間
電話相談窓口	5件	*Covid-19の為、活動を	
計	261件	制限していました。	

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00~17:00

年金相談・・・7/11(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30~15:30

法律相談・・・7/11(火)、7/19(水) 弁護士 倉林千枝子氏

13:30~15:30

傾聴・・・7/11(火) NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏

10:00~12:00

子ども相談・・・7/18(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

10:00~12:00

介護相談 (ケアプランセンター木れび 山崎彰子氏) は相談希望日をうかがいます。

▼随時予約可能です▼各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。



●とても年間のかかる、そして目配りの細かい作業を経ていたけれどできることはスゴイです。そして、(生産者の)芳賀さんのお住まいの地域の何気ない風景の美しさに驚きます。(原木しいいたけ産地見学会参加者アンケートより)

くだもの王国 山形で 切磋琢磨の生産者集団

やっぺりんごの父ちゃんたちに 組合員があいに行く!

毎年秋に届く「天童の
トライ・葉とらずふじ」

むかーしむかし。山形県の天童市に、農業に励む青年たちがおりました。時代は公害全盛期。世の中が有害化学物質で汚染されていることに皆が気付く、何とかしなくては!と立ち上がり出した頃。天童の青年たちも家業の果物づくりを守りながら、遠い滋賀県は琵琶湖の赤潮被害に心を痛め、「石けん運動」を始めました。仙台で同じような活動をする生活協同組合(あいこープの前身である仙台共同購入会)が青年たちに出会い、その組合員は青年たちの作るりんごを共同購入して食べるようになりました。

それから時は流れ約40年。今では「父ちゃん」になった青年たちは、次世代の青年たち(息子や娘や新規就農する若者)と一緒に変わらず果物づくりを頑張り、あいこープの組合員はその実りを頂いています。12軒の農家が一つの「会社」として、農法を研究し、栽培の腕を磨き、助け合って果物を出荷する、それが『天童果実同志会』です。

生産者になりきって
組合員が世話する木生産者さんに直接
レクチャーを受ける園地に掲げた看板には
組合員のメッセージがぎっしりそれに答える
生産者からの言葉も

天童果実同志会の皆さん

十数年前のある日、あいこープの組合員たちが言った「人体や環境に悪いというネオニコチノイド系農薬(殺虫剤)を使わないでりんごを作れませんか?」という要望に、天童果実同志会の会長、片桐完一さんは答えました。「んで、やってみっぺし(やってみよう)」。こうして、減農薬の「やっぺりんご」は多くの組合員の買い支えのもと実験的に始まり、供給され続けました。

しかし、近年の気候変動により、ただでさえ果物を作るのが難しくなる中、農薬の削減は困難を極めています。気候の変化は虫の発生にも影響するのです。そんな中でも「とにかく続けてみよう」と言うてくれる天童果実同志会の皆さんの力になろうと、あいこープの組合員は減農薬りんごのオーナーになりました。

2023年春、天童果実同志会の父ちゃんたちとあいこープの組合員(オーナー)は、りんごの木の下に集まり、一緒にりんごを作り始めました。農薬を使えば、大きくきれいなりんごを安定して生産できるかもしれませんが、それなのに組合員の希望をかなえようと、そして化学合成農薬に汚染されない農地を守ろうと思う生産者を、みんなで応援したかったのです。りんごの木は花盛りで、ミツバチが仕事をしていました。「今年の春も、早くに暖かくなってしまっ、花が咲いた後に霜が降りて、たくさんの花が枯れてしまった園地もあるよ」と父ちゃんたちが教えてくれました。近年大きく変わっていく気候に、生産現場は大変です。正直もう、農業の問題にばかり注力してはられない産地の状況。組合員たちは、その「現場の温度」を肌で感じながら、りんごづくりを手伝います。秋に、組合員も一緒に世話したりんごが多くの組合員の手元に届くことを夢見て。

6/23
金第35回
通常総代会

場所/ エルパーク仙台 ギャラリーホール
時間/ 10:15~12:30 (予定)
参加費/ 無料

7/6
木石けん環境委員会主催
暮らしに潜む有害化学物質

場所/ 日立システムズホール エッグホール
時間/ 10:00~12:00 定員/90名
講師/ 榎田 博氏 (有害化学物質削減ネットワーク)

6/29
木脱原発委員会主催講座
省エネなのに我慢しない
快適な暮らし

場所/ あいこープ 日の出町センター大会議室
時間/ 10:00~12:00
参加費/ 無料

9/30
土シャボン玉フォーラム
in みやぎ

場所/ 仙台市福祉プラザ
時間/ 13:00~17:00
講演会・展示・パネルディスカッションなど

委員さん募集中!

あいこープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか?

お問い合わせ先
☎0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当: 組織運営室長 豊嶋)



女川原発が止まってから

4470 日目

(2023年6月5日現在)